

「SDGs フィールドミュージアム 奈良」活動報告

産学連携で既存観光資源のエデュテイメント化を図り付加価値向上へとつなぐ

○川井 徳子 (11pt)

SDGs 教育旅行 ESD 地域活性化 エデュテイメント 産学連携

【1】目的

コロナ禍により、教育旅行の二大拠点地である奈良・京都は大ダメージを受け、両地域ともコロナ禍以前の2019年度と比較して80%近くが消失した。奈良市ではこの危機を受け、奈良教育大学・奈良商工会議所・旅館組合等が中心となって、コンソーシアムを形成、地域一体となって危機を乗り越えるための取組を始めた。これは長年、奈良教育大学が開発してきた次世代育成教育プログラム(ESD)を既存観光コースに導入することで、これまでの歴史建造物巡り中心の観光だけでなく、SDGsの視点を取り入れた新商品の開発を目指すものである。

教育旅行は歴史教育が重点分野であるが、平和教育・体験学習なども評価が高い。最近では東京ディズニーリゾートやユニバーサル・スタジオ・ジャパンなどのテーマパークが人気となっており、既存の観光拠点にとって脅威となっている。そのためには既存の歴史観光を「教育と娯楽」「楽しみながら学ぶ場所」に変えること、エデュテイメント化が重要なポイントになるであろう。(Edutainment=Education + Entertainment)

本報告はこれらのポイントを取り入れた新商品の評価を確認し、それを通じてコロナ禍からの再生をより効果的となることを目標に据えている。また、今後本取組が他地域で導入される可能性を探り、既存の観光資源の付加価値向上について考察するものである。

【2】方法 (10.5pt)

「フィールドミュージアム奈良」構想は2010年に開催された平城遷都1300年記念事業のプロデューサー福井昌平氏(イベント学会副会長)が奈良の観光開発に必要な視点として提唱したものである。詳しくは「地方創生カレッジビデオライブラリー地域で学ぼうSDGs」

【ESDの取組】この度の「新学習指導要領」では小学校は2020年度、中学校は2021年度、高校は2022年度から「持続可能な社会の次世代の育成」が掲げられたが、学校現場ではどのように指導するか教材開発が進んでいない。本事業では歴史教育という観光をSDGsの視点で捉えなおして考えさせ、過去の出来事にすぎない歴史から、現在そして未来へとつながる内容に変革したことにある。

開発にあたっては、ガイド団体に対して奈良教育大学の教授がSDGs視点の説明ツアーを施し、複数回のSDGsのワークショップを開催をすることで、SDGsの理解が図れる取り組みも行った。

【アミューズメントの視点の導入】吉本興業のタレント 笑い飯・哲夫氏によるガイド向け仏教講座を開催、エンタテイメント性の重要性、聞き手の興味をひく語りの秘訣について指導いただいた。また、教材開発にあたっては歴史だけでなく鹿と人間が千数百年織り成

して作られた特殊な環境の理解を促すため、キャラクターを導入し、固苦しくなりがちな教育をより身近で楽しめるものとなるように教材開発を心がけた。さらに「旅前・旅中・旅後」に事前事後のオンラインでの学習システムを用意した。

【3】結果（10.5pt）

実証事業におけるアンケート調査から下記の回答があった

「素晴らしいほど奈良が良かった」「初めて寺の中で良い経験が出来た」

「奈良全体の歴史ある街並みからここまでSDGsにつながるとは思っていなかった」

「SDGsは難しいこともたくさんあったけど、SDGsについて学ぶことが出来て本当にうれしかったです。もう少し深く学んでみたいと思います。」

「楽しかったです。SDGsを本当に実感できました。」

など、歴史教育だけでなくSDGsの理解がおおむね達成できている。何よりも「楽しい」や再訪したいという前向きな用語がたくさん並ぶ回答となった。一方で、ガイドのレベルによってSDGsの説明が充分に行き届かない、という課題も確認できた。

【4】考察と【5】結論

実証事業の結果から、奈良教育大学の開発した手法、歴史をSDGsの視点で開発するESDは子供たちにわかりやすく、またなじみやすい教材であったことがわかった。また、エンタテインメント性を重視したことで、楽しみながら学ぶという目標は一定の成果があった。今後の課題は「ガイド個人の力量により、旅行の最終的な評価に差が出る」点である。ガイドの質の向上と標準化のための評価制度など、多くの課題が存在するといえる。また、ESD教育の目標となる行動の変容については、今後、長期の観察が必要とされるので、コンソーシアム自体の業務の切り分けが重要となってくると予測される。

新商品開発により一定の成果が出ている。初年度2022年は4000人、また2023, 2024年の予約も既に入っている。本事業の成果を向上させるには、ガイド育成や新コースの開発などの課題に対応していくことがポイントとなる。なお、他地域への展開にあたっては、今回のポイントとなった歴史・環境の教育にSDGsの視点を導入すること、ガイドは教育産業の一種でありその高度化が重要であること、何よりエデュテインメントを意識し「楽しみながら気づく・学ぶ」を大切にしていきたい。

